

# A-100X

NATURAL SOUND STEREO AMPLIFIER

取扱説明書・保証書



ご使用前に必ずお読みください。

このたびは、ヤマハ・ステレオプリメインアンプ A-100X を  
お買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。  
A-100X の優れた性能を充分に発揮させると共に、長年支障  
なくお使いいただくために、この取扱説明書をご使用の前に  
ぜひお読みくださいますようお願いいたします。

## 目 次

特長	1
豊かなオーディオライフのために	2
接続のしかた	3
各部の名称とはたらき	6
演奏のしかた	9
録音のしかた	10
故障かなと思ったら	12
参考仕様	13
ブロックダイアグラム	14
ヤマハホットラインサービスネットワーク	15

# 特長

## ● 高出力・低歪率パワーアンプ

ビュアコンプリメンタリーSEPP回路のパワーアンプは、  
80W+80W(6Ω)のハイパワーで、ファイナルパワー段に  
新開発歪打消回路ZDR(ゼロディストーションルール)を  
設け、高出力・低歪率パワーアンプを実現しています。

## ● MCカートリッジが直接使用可能

ゲイン切り換え式ハイゲインイコライザーアンプの採用に  
よって、PHONOスイッチの切り換えだけであらゆるMC  
カートリッジがそのまま使用できます。

## ● 豊富な付属機能

CDならではのハイクオリティーな音質を、最優先にスピー  
カーに伝えることのできるCD DIRECTスイッチ。  
ダブルアクションやテープのダビングが可能なREC OUT  
セレクター。さらに使用するスピーカーの低域周波数特性  
を1オクターブ下まで伸ばすことのできるRICHNESS ス  
イッチ。フロント入力端子のVIDEO/AUX。そしてサラウ  
ンドアンプやグラフィックイコライザー等の接続に便利な  
アクセサリ端子など多様なオーディオシステムのコント  
ロールセンターとして十分な機能を備えています。

## ● 操作性のよいパネルデザイン

ソフトな操作性を備えたスイッチやコントロールツマミは、  
フロントパネルにバランスよくマッチして、ヤマハ独自の  
優美なデザインを造りだしております。

# 豊かなオーディオライフのために

高温をさけて！

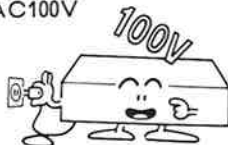


ほこり・水気をさけて！



国内のみ使用可

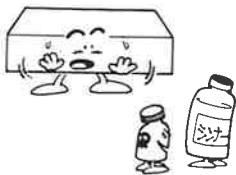
家庭用電源コンセント  
AC100V



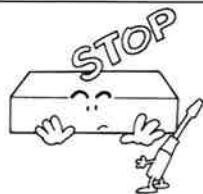
不安定な場所をさけて！



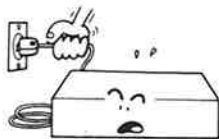
薬物厳禁



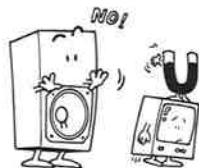
開けないで！



引っぱらないで！



磁気・テレビはさけて！



こわれた？



12ページの「故障かなと思ったら」をご覧ください。

保証書の手続きを！



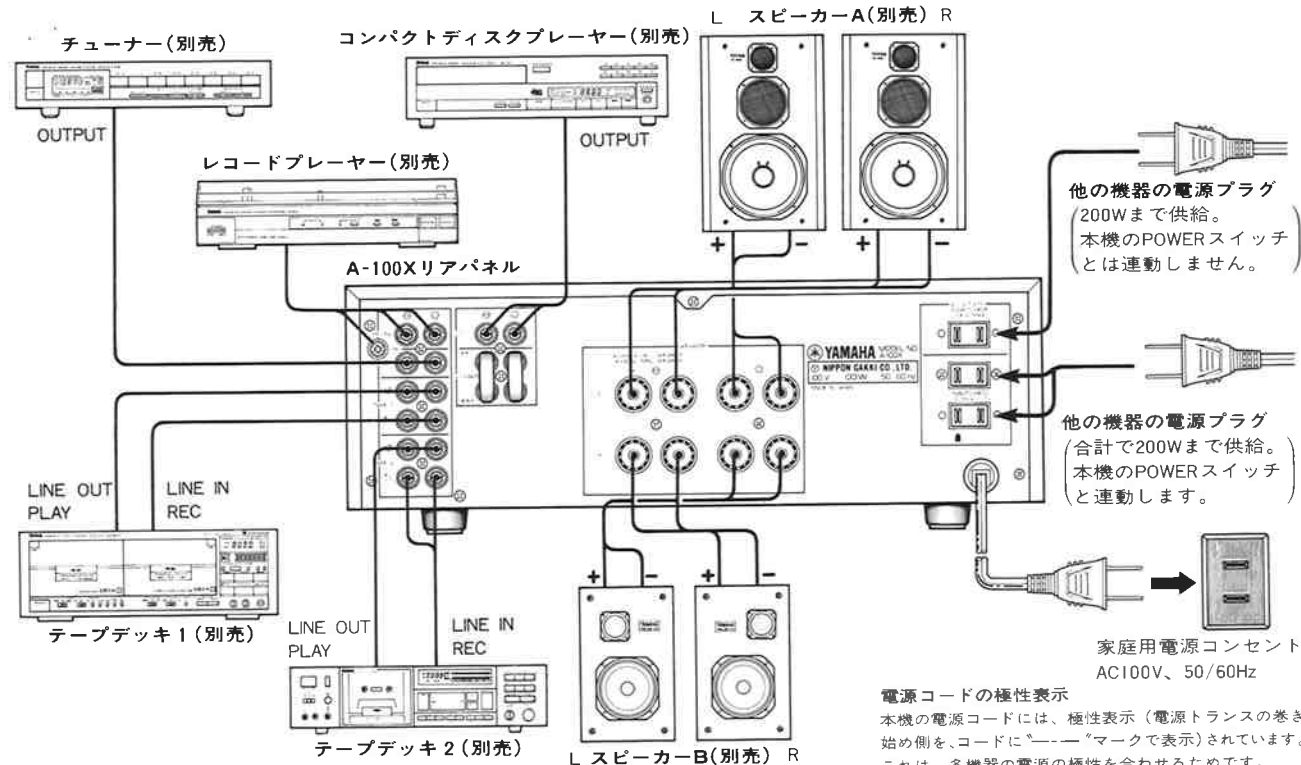
取扱説明書はかならず  
保管してください。



ファイルなど

# 接続のしかた

※接続の際は、各機器の電源を切り、右チャンネル(R)、左チャンネル(L)を確認して正しく接続してください。



## ■スピーカーシステムの接続

SPEAKERS端子Aの⑧側に右側のスピーカーシステムを、①側には左側のスピーカーシステムを極性(+、-)を確認して接続してください。

SPEAKERS端子Bも同様にもう一組のスピーカーシステムを接続することができます。

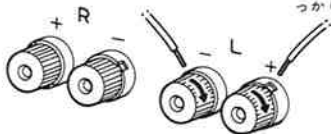
※極性が合っていない場合、音が中央に定位せず、ステレオ感のない低音のそこなわれた不自然な再生音となりますのでご注意ください。

※接続するスピーカーは指定のインピーダンスの範囲内のものをご使用ください。スピーカーを並列に接続して使用する場合、スピーカーの合成インピーダンスが指定範囲を下まわらないように特にご注意ください。

※AまたはB端子だけに接続する場合は6~16Ω。A・B両方の端子に接続されたスピーカーシステムを同時に使用する場合は、A・Bそれぞれのスピーカーシステムが12Ω以上のものをご使用ください。

※接続の際スピーカーコードの露出部分が他の端子に接触しないようにご注意ください。

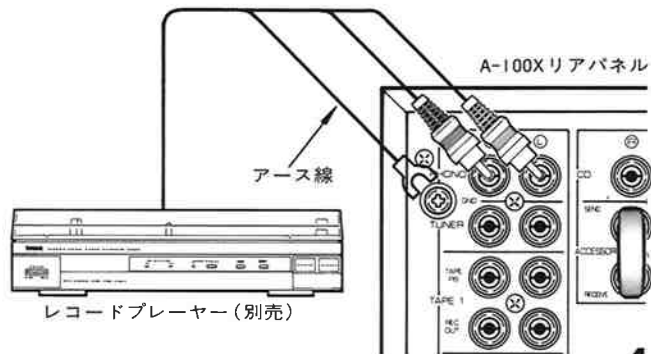
スピーカーコードの先端10mmの絶縁をはがしてください。次にスピーカーツマミをゆるめてコードのワイヤ露出部分を穴に差し込みしっかりとしめつける。



スピーカーコードを下からも接続することができます。

## ■レコードプレーヤーの接続

レコードプレーヤーの出力コードをPHONO端子に接続し、アース線をGND端子に接続してください。



## ■CD、チューナー

コンパクトディスクプレーヤー(CD)はCD端子へ、FM/AMチューナーはTUNER端子へそれぞれ接続してください。

## ■テープデッキの接続

本機では、TAPE 1、TAPE 2 端子にテープデッキの接続ができます。

TAPE PB端子とテープデッキのLINE OUT端子、REC OUT端子とテープデッキのLINE IN端子をそれぞれ接続してください。

## ■ACCESSORY端子の使用

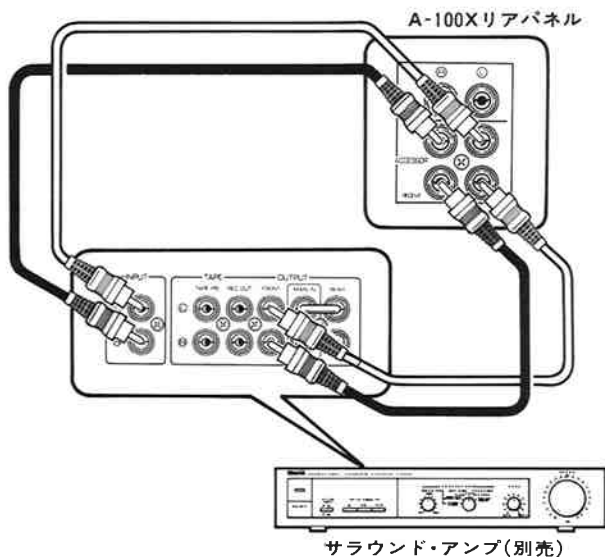
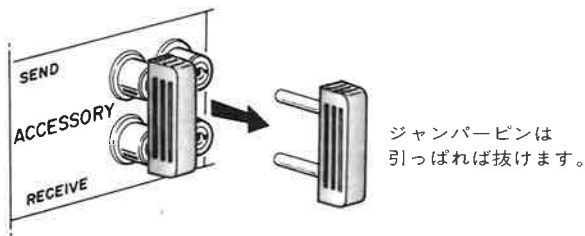
アクセサリ

サラウンド・アンプ、グラフィックイコライザー等を使用するときは、ACCESSORY端子に接続します。

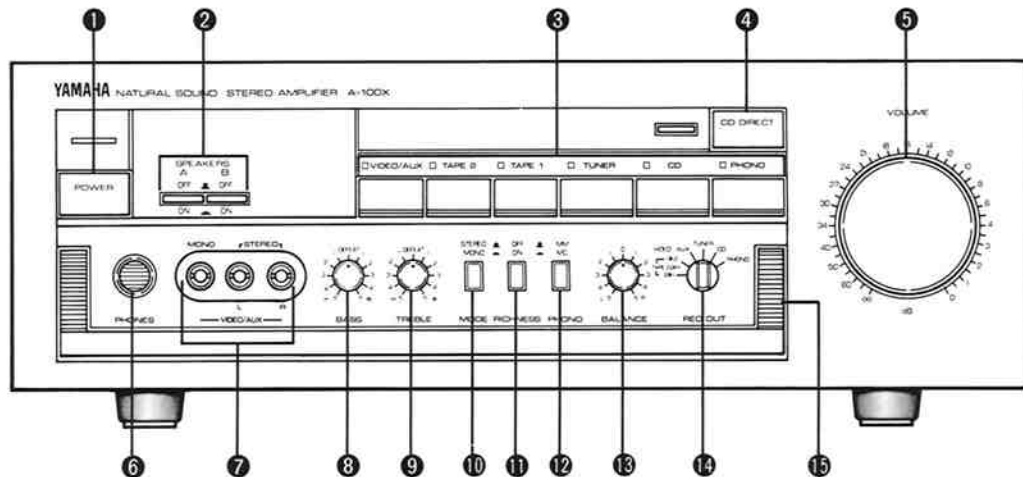
ACCESSRY端子よりジャンパーピンを抜き取り、SENDとINPUT、RECEIVEとOUTPUTを右図のように①、②それぞれ接続してください。

なお、ACCESSORY端子を使用しないときは、ジャンパーピンは差し込んだままにしておきます。

※CD DIRECTスイッチがONされていると、ACCESSORY端子には信号は出ません。



# 各部の名称とはたらき



パワー

## ①POWERスイッチ

このスイッチを押すと電源が入り上のインジケーターが点灯します。もう一度押すと電源が切れます。

※電源を入れるときは、必ずVOLUMEツマミを最小の位置“∞”に回してください。

※電源を入れてから数秒間は、スピーカー保護回路が働いているため音が出ません。

スピーカース

## ②SPEAKERSスイッチ

本機に接続されたスピーカーシステム(A・B)を選択するスイッチです。

Aのボタンを押すとA端子に接続されたスピーカーシステムから、Bのボタンを押すとB端子に接続されたスピーカーシステムから音が出ます。

A・B両方のボタンを押すとA・B両方のスピーカーシステムから音が出ます。

### ③ インプットセクター

プログラムソースを選択するスイッチです。  
お好みのプログラムソースのボタンを押してください。

### ④ CD DIRECTスイッチ

インプットセクターに関係なくCDを選択することができます。CDのハイクオリティーを最優先に、スピーカーに伝えますのでCDならではの音質をお楽しみいただけます。

CDダイレクトスイッチがONの時は、アクセサリ端子に接続された機器をMODEスイッチ、バランスコントロールによって調整できません。

### ⑤ VOLUMEツマミ

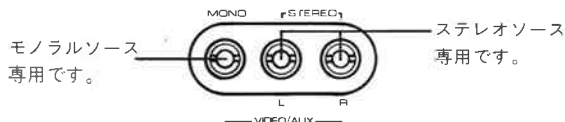
音量を調整するツマミで右に回す(時計方向)ほど音量が大きくなります。  
POWERスイッチをはじめ、各スイッチを切り換えるときや、レコードに針を降ろすとき、針を上げるときは一度音量を最小にしてください。

### ⑥ PHONESジャック

ヘッドホンを接続するジャックです。ヘッドホンだけでお聴きになりたいときは、スピーカーセレクトスイッチA・B両方のボタンをOFF ■ にしてください。

### ⑦ VIDEO/AUX入力端子

これは、補助入力端子です。  
ビデオデッキ等を接続できます。  
その際、ステレオソース用とモノラルソース用と区別して接続してください。



### ⑧ BASSツマミ

低音域を調整するツマミで、DEFEATポジションでフラットになり、右に回すほど低音が強調され、左に回すほど減衰されます。

### ⑨ TREBLEツマミ

高音域を調整するツマミで、DEFEATポジションでフラットになり、右に回すほど高音が強調され、左に回すほど減衰されます。

### ⑩ MODEスイッチ

プログラムソースのモードを選択します。  
STEREO ■ では通常のステレオで再生され、MONO ■ ではモノラルで再生されます。



リッチネス  
① RICHNESS スイッチ

このスイッチを押すと、接続されているスピーカーの低域周波数(60Hz)特性が約6 dB増強されます。

このときは、有害な超低域成分は自動的にカットされます。

フォノ  
② PHONO スイッチ

ご使用されるカートリッジにより切り換えてください。

MM型カートリッジはMM ■ ポジションで、MC型カートリッジはMC ■ ポジションでご使用ください。

※カートリッジの出力電圧は機種によって異なりますのでカートリッジの取扱説明書をご参照ください。

※レコードプレーヤーP-100X(別売)ではMC ■ ポジションでご使用ください。

バランス  
③ BALANCE ツマミ

左右のスピーカーの音量バランスを調整します。つまみを右(左)に回すと左(右)の音が小さくなります。

バランス調整は、MODEスイッチを“MONO”にし、左右のスピーカーの音が中央に聞こえるようにします。調整後は、モードを“STEREO”に戻しておきます。

レック アウト セクター  
④ REC OUT SELECTOR

接続されているテープデッキに録音用の信号を選択して送り出すスイッチです。

インプットセクターに関係なく接続されているプログラムソースを選択して録音することができます。たとえば、レコードを聴きながらREC OUTスイッチをTUNERにしてFM放送をエアチェックすることが可能です。

録音中あるいはダビング中、トーンコントロール、BALANCE、VOLUME、MODE、RICHNESSなどを操作しても録音には影響しません。

⑤ シーリングパネル

ひんぱんに操作する必要のないスイッチやコントロール類を収納することができますので、シーリングパネルを閉めておきますと、すっきりとしたパネルフェイスになります。開けるときは、パネル下部を軽く押してください。

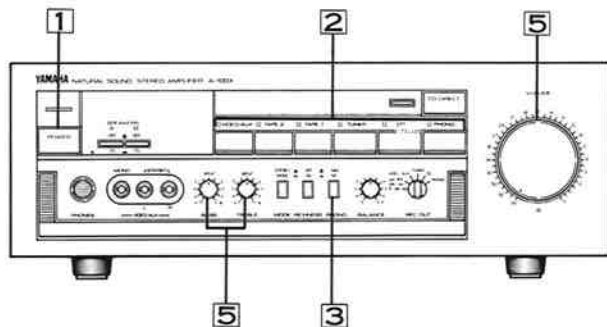
# 演奏のしかた

電源を入れる前に接続をもう一度確認しましょう。

●接続コードの①、②及びスピーカーシステムとアンプの極性(+、-)は逆になっていませんか。

●接続コードはしっかり接続されていますか。

また、演奏を始める前は、アンプのボリュームは最小にしておきましょう。



④ プログラムソースの演奏

- ① アンプおよび各機器のPOWERスイッチを押します。
- ② インプットセクターで、プログラムソースを選択します。
- ③ レコード演奏の場合は、使用するカートリッジに合わせてPHONOスイッチをセットします。  
レコードプレーヤーP-100X(別売)をご使用になるときは、MC 位置にセットしてください。
- ④ プログラムソースの演奏を始めます。  
各機器の操作方法は、それぞれの取扱説明書を参照してください。
- ⑤ アンプの音量や音質を調整してください。

## ■CD DIRECT スイッチ

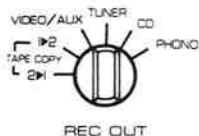
CD DIRECTスイッチをONにすると、インプットセクターのCDスイッチを押した場合より短い信号経路でCDプレーヤーからの信号をスピーカーに伝えます。CDを良い音質でお楽しみいただけます。

# 録音のしかた

アンプ、テープデッキおよび録音したい機器のPOWERスイッチを押します。



REC OUTセクターで録音したいプログラムソースを選びます。



録音するプログラムソースをスタートさせます。

テープデッキを操作し、録音を始めます。  
(同時に2台のテープデッキに、録音できます。)テープデッキの操作はテープデッキの取扱説明書をご覧ください。

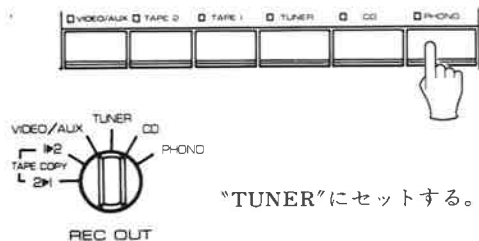
録音内容をモニターする(録音している音を聴く)時は、インプットセクターの"TAPE 1"または"TAPE 2"(録音しているテープデッキに合わせて)ボタンを押してください。

## ■ダブルアクションについて

インプットセクターで選んだプログラムソースを聞きながら、別のプログラムソースをREC OUTセクターで選んで録音することができます。……ダブルアクション  
ダブルアクションの主な例は下表のようになります。

インプットセクター	REC OUTセクター	ダブルアクション
PHONO	TUNER	レコードをスピーカーで聴きながらFMまたはAM放送を録音できます。
TUNER	TUNER	FMまたはAM放送をスピーカーで聴きながら同時に録音できます。
PHONO	PHONO	レコードをスピーカーで聴きながら同時に録音できます。
TUNER	PHONO	FMまたはAM放送をスピーカーで聴きながらレコードを録音できます。

例：レコードを聴きながら、FM放送を録音する場合



この他にも、インプットセクターとREC OUTセクターの組み合わせにより、いろいろなプログラムソースを二重に楽しむことができます。

## ■テープのダビングについて

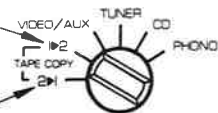
テープデッキが2台ありますと、テープからテープへダビングすることができます。

リアパネルTAPE 1端子に接続しているテープデッキ1から、TAPE 2端子のテープデッキ2へダビングする場合は、

- 1.REC OUTセクターを"TAPE COPY 1 ▶ 2"にします。
- 2.テープデッキ1を再生状態にし、テープデッキ2で録音します。

(テープデッキ2から1へも同様にして、REC OUTセクターを"TAPE COPY 2 ▶ 1"にし、上記2を逆の状態にするとダビングすることができます。)

テープデッキ1からテープデッキ2へダビングする場合



テープデッキ2からテープデッキ1へダビングする場合

録音中あるいはダビング中、トーンコントロール、BALANCE, VOLUME, MODE, RICHNESSなどを操作しても、録音には影響しません。

# 故障かなと思ったら

本機をご使用中に正常に動作しなくなったときは、下記の事項をご確認ください。そのうえで正常に動作しない、あるいは下記以外で何か異常が認められました場合は、本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げ店または最寄りのYAMAHA電気音響製品サービス拠点宛、お問い合わせ、サービスをご依頼ください。

どんな状態ですか	ここをチェックしてください	こうすればOKです
電源スイッチをONにしても電源が入らない。	電源コードのプラグが電源コンセントにしっかり差し込まれていない。	電源プラグを電源コンセントにしっかり差し込みなおしてください。
インプットセレクターを切り換えても再生音が全く出ない。	SPEAKERSスイッチが正しくセットされていない。	正しくセットしてください。
	VOLUMEツマミが絞られている。	VOLUMEツマミを右(時計方向)に回してください。
	入力端子のピンプラグが確実に差し込まれていない。	ピンプラグをしっかりと差し込みなおしてください。
左右スピーカーあるいは左右いずれかのスピーカーから音が出ない。	アンプとスピーカーの接続が不完全。	接続を確認してください。
	BALANCEツマミがLかRのどちらかにずれている。	BALANCEツマミを正しく調整してください。
低音のない不自然な再生音で、音像が安定しない。	アンプとスピーカーの位相(+、-)が合っていない。	アンプとスピーカーの位相(+、-)を合わせて接続しなおしてください。
レコード演奏のとき“ブーン”というハム音が入る。	ピンプラグの接続不良。	ピンプラグをしっかりと差し込みなおしてください。
	プレーヤーのアース線がはずれている。	アース線をリアパネルGND端子に接続してください。
	MCカートリッジの近くに電源コードがある。	電源コードは、カートリッジやPHONO出力コードの近くには配線しないようにしてください。
レコード再生時、VOLUMEをあげると“ワーン”という音が出る。	レコードプレーヤーとスピーカーシステムの設置場所が近すぎたり、不安定だったりして“ハウリング”をおこしている。	レコードプレーヤーとスピーカーシステムの各々の設置場所を変えてください。(特に部屋のコーナーは避けてください。)
MCカートリッジの音が小さい。	PHONOスイッチがMMの状態になっている。	PHONOスイッチをMCにセットしてください。

# 参考仕様

## 定格出力

20Hz~20kHz, 0.005% THD, 8Ω	75W+75W
0.008% THD, 6Ω	80W+80W

## ダイナミックパワー

1kHz, 8Ω/6Ω/4Ω	97W/116W/138W
----------------	---------------

## パワーバンド幅

0.03% THD, 37.5W/8Ω	10Hz~50kHz
---------------------	------------

## ダンピングファクター

1kHz, 8Ω	50
----------	----

## 入力感度/入力インピーダンス

PHONO MC	160μV/100Ω
MM	2.5mV/47kΩ
CD, TAPE, TUNER, ACCESSORY RECEIVE	150mV/47kΩ
VIDEO/AUX	150mV/10kΩ

## 最大許容入力

1kHz, 0.01% THD, PHONO MC	10mV
MM	150mV

## 出力電圧/出力インピーダンス

REC OUT	150mV/470Ω
---------	------------

## ヘッドホン

0.008%	0.81V/8Ω
--------	----------

## 周波数特性 (20Hz~20kHz)

CD, TAPE, TUNER, VIDEO/AUX	±0.3dB
----------------------------	--------

## PIAA 偏差

20Hz~20kHz, PHONO MC	±0.3dB
MM	±0.2dB

## 全高調波歪率(20Hz~20kHz)

PHONO MC→REC OUT (3V)	0.005%
MM→REC OUT (3V)	0.003%
CD, TAPE, TUNER, AUX/VIDEO (37.5W/8Ω)	0.003%

## 混交調歪率

CD, TAPE, TUNER (定格出力/8Ω)	0.002%
---------------------------	--------

## SN比 (IHF A ネットワーク, 入力ショート)

PHONO MC (250μV)/MM (2.5mV)	70dB/86dB
CD, TAPE, TUNER	106dB

## 入力換算雑音 (IHF A ネットワーク)

PHONO MC/MM	-142dB/-138dB
-------------	---------------

## 残留ノイズ (IHF A ネットワーク)

140μV

## チャンネルセパレーション (1kHz, Vol. -30dB)

PHONO MC/MM (ショート)	70dB/70dB
CD, TAPE, TUNER (5.1kΩ)	65dB

## トーンコントロール

BASS	10dB (20Hz)
ターンオーバー周波数	350Hz
TREBLE	10dB (20kHz)
ターンオーバー周波数	3.5kHz

## リッチネス 60Hz

+6dB

## 定格電源電圧, 周波数

AC100V, 50/60Hz

## 定格消費電力

133W

## AC アウトレット

SWITCHED × 2	Total 100W max.
UNSWITCHED	200W max.

## 外形寸法 (W×H×D)

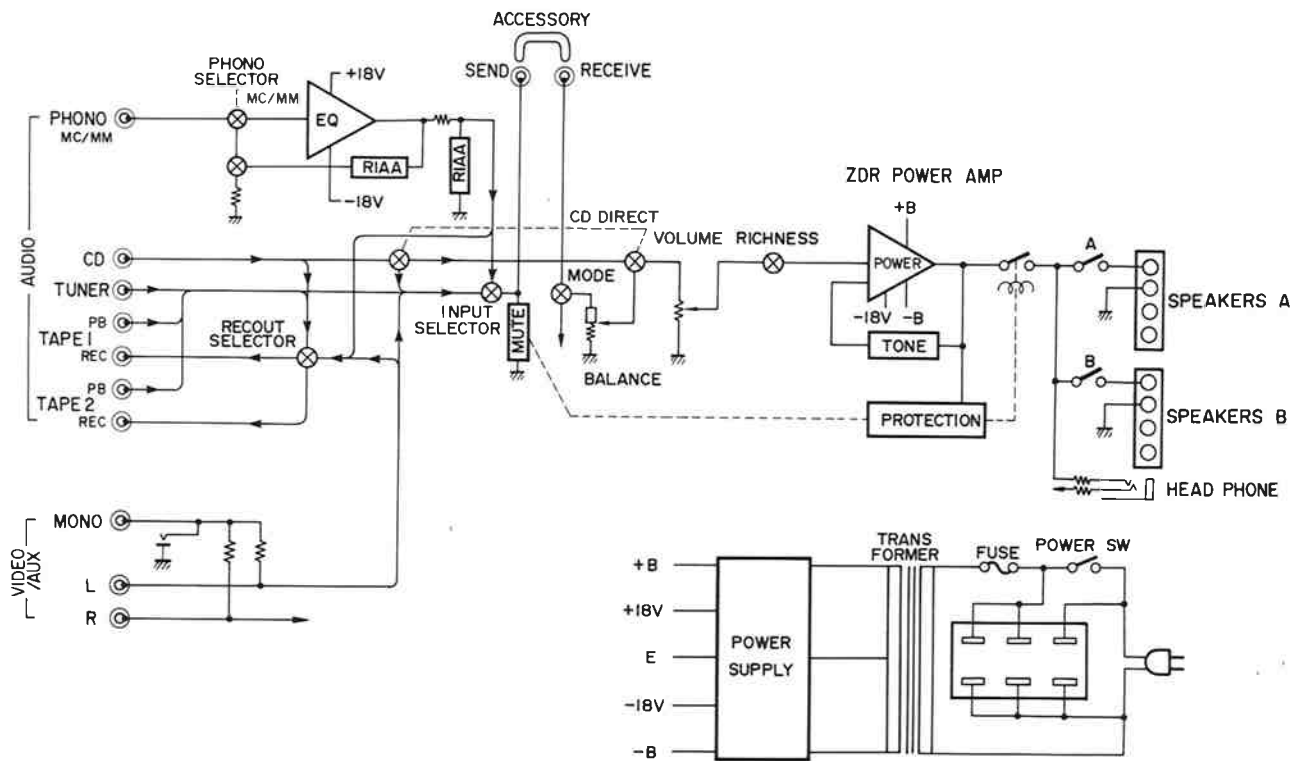
340×120×373mm

## 重量

7.5kg

※仕様および外観は改良のため予告なく変更されることがあります。

# ブロックダイアグラム



# ヤマハ ホットライン サービス ネットワーク

ヤマハ ホットライン サービス ネットワークは、本機を末長く、安心してご利用頂けるためのものです。サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

## ●保証期間

お買い上げ日より1年間です。

## ●保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

## ●保証期間経過後の修理

修理によって製品の機能が維持できる場合には、お客様のご要望により有料にて修理いたします。

## ●補修用性能部品の最低保有期間

補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後8年です。この期間は通商産業省の指導によるものです。

補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

## ●持ち込み修理のお願い

故障の場合、お買い上げ店、または最寄りのYAMAHA電気音響製品サービス拠点へお持ちいただければ、出張料などの経費の点でお得です。(右欄サービス拠点の所在地と電話番号をご参照ください。)

## ●ステレオの状態は詳しく

サービスをご依頼なさるときは、ステレオの状態をできるだけ詳しくお知らせください。またセットの品名、製造番号などもあわせてお知らせください。

※品名、製造番号は本機背面パネルに表示されています。

## ■YAMAHA電気音響製品サービス拠点

(電気音響製品の修理受付および修理品お預かり窓口)

- 北海道 〒065 札幌市東区本町1条9-3  
TEL(011)781-3621
- 仙台 〒983 仙台市卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F  
TEL(0222)36-0249
- 東京 〒211 川崎市中原区木月1184  
TEL(044)434-3100
- 新潟 〒950 新潟市万代1-4-8 シルバーボールビル2F  
TEL(0252)43-4321
- 浜松 〒432 浜松市東伊場2-13-12  
TEL(0534)56-9211
- 名古屋 〒454 名古屋市中川区王川町2-1-2  
日本楽器名古屋流通センター3F TEL(052)652-2230
- 大阪 〒565 吹田市新芦屋下1-16 千里丘センター内  
TEL(06)877-5262
- 四国 〒760 高松市九亀町8-7 日本楽器高松店内  
TEL(0878)51-7777 (0878)22-3045
- 広島 〒731-01 広島市安佐南区西原2丁目27-39  
TEL(082)874-3787
- 九州 〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4  
TEL(092)472-2134
- 本社  
ホームエレクトロニクス事業本部サービス技術課  
〒430 浜松市中沢町10-1 TEL(0534)65-1111
- ## ■ステレオ営業所
- 北海道 〒064 札幌市中央区南10条1-4 ヤマハセンター内  
TEL(011)512-6115
- 仙台 〒980 仙台市大町2-2-10 住友生命仙台青葉通りビル  
TEL(0222)23-3101
- 東京 〒101 東京都千代田区神田駿河台3-4 龍名館ビル4F  
TEL(03)255-6767 (03)255-5691 (03)255-2201  
(03)255-1825 (03)255-2605 (03)255-4701
- 横浜 〒211 川崎市中原区木月1184  
TEL(044)434-4871
- 新潟 〒950 新潟市万代1-4-8 ヤマハ新潟センター内  
TEL(0252)41-2084
- 千葉 〒260 千葉市千葉港2-1 千葉中央コミュニティーセンター内  
TEL(0472)47-6622
- 水戸 〒310 水戸市三ノ丸1-4-73 三井ビル5F  
TEL(0292)24-7774
- 高崎 〒370 高崎市達巻町75 ヤマハ高崎月販内  
TEL(0273)27-3322

- 静岡 〒422 静岡市緑ヶ丘町1-15 緑ヶ丘ビル48  
TEL(0542)85-4878
- 浜松 〒432 浜松市東伊場2-13-12  
TEL(0534)56-4461
- 名古屋 〒464 名古屋千種区東山通5-65  
ヤマハ東山センター3F TEL(052)782-7551
- 北陸 〒920 金沢市本町2-7-1 越田ビル1F ヤマハ金沢ショップ内  
TEL(0762)21-2166
- 関西 〒556 大阪市浪速区敷津 1-9-16 ヤマハなんばセンター内 TEL(06)647-6411
- 中国 〒730 広島市中区八丁堀10-14  
TEL(082)221-4123
- 四国 〒760 高松市九亀町7 ヤマハビル7F  
TEL(0878)22-8642
- 北九州 〒803 北九州市小倉区堅町2-3-13  
ヤマハ小倉センター内 TEL(093)592-3122
- 九州 〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4  
TEL(092)472-2131

## ■ヤマハオーディオ日本楽器直営店

- 札幌店 〒064 札幌市中央区南十条西1丁目  
ヤマハセンター TEL(011)512-6126
- 仙台店 〒980 仙台市一番町2-6-5  
TEL(0222)27-8517
- 銀座店 〒104 東京都中央区銀座7-9-14  
TEL(03)572-3133
- 浜松店 〒430 浜松市鍛冶町321-6  
TEL(0534)54-4327
- 名古屋店 〒460 名古屋市中区錦1-18-28  
TEL(052)201-5153
- 心斎橋店 〒542 大阪市南区心斎橋筋2-39  
TEL(06)211-8869
- 神戸店 〒650 神戸市中央区元町2-7-3  
TEL(078)391-7651
- 海外拠点  
ロスアンゼルス・メキシコ・ハンブルグ・  
スウェーデン・シンガポール・フィリピン
- 日本楽器製造株式会社  
〒430 浜松市中沢町10-1 TEL.(0534)65-1111
- 住所および電話番号は変更になる場合があります。